

今こそ恵みの時

コリントの信徒への手紙Ⅱ第六章―10節

なぜなら、「私は恵みの時に、あなたに応え 救いの日に、あなたを助けた」と神は言っておられるからです。今こそ、恵みの時、今こそ、救いの日です。(2)

神の恵みの中心は、滅ぼされても仕方のない者たちが赦され、神の子とされたことです。けれども私たちは、日々の生活の中でその救いの恵みを見失ってしまっていることがあります。自分の信仰の弱さに直面して、「こんな自分はダメだ」と思ってしまったたり、厳しい状況に直面して、自分に対する神の愛を信じられなくなってしまうことがあります。そのような者たちにパウロは今日の聖句をもって励まします。「いつかそのうち」というのではなく、今こそ神が恵みを注いでくださる時、今こそ救いを与えてくださる時である、と。今まさに注がれているこの神の恵みを無駄にしてはならないと訴えます。クリスマスを前にした今この時は、まさに恵みの時、救いの日ではないでしょうか。溢れるばかりの神の恵みを無駄にすることなく、恵みを恵みとして受け取るうではありませんか。